



感染症に気をつけよう!

2019年【1月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
<u>インフルエンザ</u> **	注意報	増加	11月下旬に流行が始まり、12月下旬には注意報が発令されています。【'18.12号】
<u>伝染性紅斑</u> ** (リンゴ病)	流行	横ばい	例年に比べて多い状態が1年以上続き、11月下旬には警報レベルになりました。【'18.7号】
<u>風しん</u> **	多発	横ばい	30~40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。【'18.10号】【風しん対策事業】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



- 予防の基本は、正しい手洗いの習慣です。
- もし咳や熱などの症状が出てしまったら、マスクを着けて、咳エチケットを守り早目に受診してください。



- 咳やくしゃみをする時、口や鼻から細かいしぶき(飛沫)が飛び散ります。
- 患者の飛沫にはインフルエンザウイルスが含まれているので、マスクをしないで咳やくしゃみをする時、飛沫が飛んで周囲に感染を広げてしまいます。
- マスクがない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけましょう。



- 発症後3~7日間は、鼻やのどからウイルスを排出すると言われています。
- 学校等については、【症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は休むこと】とされています。



参考ホームページ *：国立感染症研究所 **：厚生労働省

